

NPO 法人

全日本語りネットワーク

〒376-0045 群馬県桐生市末広町 11-1 JR 駅構内
桐生市民活動推進センター
(Fax) 0277-47-4066 (振替) 00130 - 2 - 114808
(E-mail) welcome@japankatarinet.jp
(HP) http://japankatarinet.jp/

2012. 1. 30 発行

ニュース

語り継がれていくもの

望月新三郎 (東京都荒川区)

ある図書館で民話の話をしたとき、私は少年の頃の体験を語りました。すると、一人のお年寄りの方が、

「私は、10歳の時、空襲で逃げまどいました。あっという間に、街が炎に包まれて、学校も、病院も、沢山の家が焼けて、無くなってしまったんです。今度の3月11日の東北大地震の津波もそうでした。一瞬のうちに街が失われてしまいました。私は、戦時中とこの時と重なってしまって、3日もご飯が食べられなかったんです」と話されました。

私も、66年前、川崎市と東京都で、二度にわたって大空襲で家を焼かれ、一面焼け野原の街に、放り出されました。この時、難民そのものの生活を強いられたことが、今度の東北大地震と重ね合わせになり、少年の頃を思い起こしていました。

3月11日の大震災の後、体験した多くの方々の中から、語りたいという人が沢山出てきました。一方では、辛く、悲しくて、今は語りたくない人もおられます。

かつて、広島原爆被爆者から、聞き書きをしていた時でした。幾年か通って親しくなった時、40数年もの間、一言も話そうとしなかった被爆者が、ぽつりぽつりと、自分の体験した話を語られました。一つひとつ、語りの場面が、まるで昨日の出来事のように浮かんで来て、悲しくもあり、真に迫っていて、涙なくして聴けませんでした。

さて、地震、津波は自然災害ですが、戦災や原発事故による災害は人災です。人びとの生活は、自動車や電気などが普及されて以来、大変便利になりました。しかし、便利になればなるほど、地球という惑星の自然環境を著しく、破壊してきているのです。環境の破壊は天候、干ばつ、水害などにも少なからず影響を与えてきております。かけがえのない地球の明日を考え、生活者の一人として、どう語り継いでいくのか、これからの大きな課題といえましょう。



「ススメ少国民」を語る
望月氏(11/23テラブレーションにて)